

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

千葉県 習志野市立第一中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設定、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

- 期 日 : 平成30年5月28日 (月)
- ク ラ ス : 2年4組 (38名)、2年5組 (38名)
- オリンピアン : 石野 枝里子 先生 (スケート・スピードスケート)



■授業のながれ : 運動の時間 (1、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介をした後、今日は運動と座学の時間通してオリンピックについて学んでほしいと授業の目的を確認。運動の時間は「全力で取り組む」「皆で協力しよう」「話をしっかり聞く」という3つを意識して取り組むことを約束した。
- ・ストレッチをした後体育館をジョギングし、その後2人組になってボール取りゲームを実施。

3. 主運動



- ・6班対抗でスケートルレーを全2回実施。掃除用スリッパ・ニット帽・レッグウォーマー・エコバックの4種類アイテムの中から各班1つを選び、アイテムを着けた片足を滑らせて前に進む。スピードスケートのような低い姿勢を保ち、10m程先に置かれたマーカーまで往復する。途中床に置かれた3個のマーカーを指定の位置に移動させながら進む。
- ・1回目終了後、より速くゴールするための作戦を班毎に話し合い、2回目を実施すると、全班1回目の記録を上回ることが出来た。

4. まとめ



- ・石野先生から、授業冒頭に話した約束を守ることができたかを確認し、各班とも皆で協力しながら、しっかり応援したことが、チームの力になっていたと伝えた。
- ・座学の時間では、運動の時間に感じたことを踏まえて、更にオリンピックについてみんなで考えていこうと予告し、授業終了。

■授業のながれ：運動の時間（2、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・石野先生が出場したトリノ大会の日本代表選考会の映像を見せながら、競技の特徴やルールについて説明。
- ・クーベルタンについて紹介し、近代オリンピックの歴史を説明した後、石野先生が経験した3つのオリンピックバリューについて伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：学校生活をより良いものにしていくために、オリンピックバリューをどう活かせるか考える。
- 発表：失敗を成功につなげる、一つの目標に向かって切磋琢磨する(エクセレンス)、ライバルとお互いに助け合う、自分のできる事や得意なことを教え合う(フレンドシップ)、勝負の結果にとらわれずに感謝し合う、お互いを尊敬し認め合う(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは普段の生活の中に活かせることが理解できたと思う。東京2020大会はバリューも意識して応援してほしい。
- ・千葉県ではレスリング、フェンシング、テコンドー、サーフィンの4競技が開催されるが、開催地として今まで以上にオリンピックを身近に感じるとともに、出場している選手にとってのオリンピックバリューについても注目してほしい、と伝え授業終了。

実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年5月28日 (月)
- ク ラ ス : 2年3組 (39名)
- オリンピアン : 野村 智宏 先生 (陸上競技・走高跳)



■授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介をした後、今日は、オリンピアンがどんなことを感じながらオリンピックに出場しているのか伝えていくので、オリンピックバリューについて知ってほしいと授業の目的を確認。
- ・準備体操をした後、頭を使った運動として、先生の指示に合わせて先生と同じ動きや指示と反対の動き等を実施。

3. 主運動



- ・6班に分かれてボール取りゲームを全3回実施。班ごとに2グループに分かれ、3グループずつ挑戦。自陣に集めたボールの数に応じた得点の合計を競う。
- ・クラス全員で手つなぎだるまさんがころんだを実施。

4. まとめ



- ・野村先生から、クラス全員で取り組んだ「手つなぎだるまさんが転んだ」では、お互いフォローしあっている姿が見られたが、オリンピックバリューにもつながるとても大切なことだと伝え、座学の時間では運動の時間を振り返りながら、オリンピックについてさらに詳しく学ぼうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ： 運動の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・野村先生から、座学の時間ではさらにオリンピックがどういふものが詳しく学ぼうと授業の目的を確認。
- ・皆にとってオリンピックとは何かと問いかけ、野村先生が出場したアトランタ大会の映像を見せながら、競技ルールや海外選手について紹介した後、野村先生にとってのオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：体育祭で何を意識（貢献）したか、その結果は何を得られたか何かを書き出してみる。
- 発表：練習を積み重ねて全力を尽くした、練習に集中して取り組んだ→良い結果につながった（エクセレンス）
 各色ごとに団結した、掛け声でチームワークを高めた→絆が生まれた（フレンドシップ）
 お互いを尊重し、協力し合って練習した→結果発表の時にどの組の賞も喜ぶことができた（リスペクト）

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは、オリンピックだけではなく、皆も日頃から実践していることで、夢を実現するためにも大切なことはことである。努力を積み重ねることで自信が生まれ、良い結果につながる。親や先生等自分を支えてくれる人への感謝も忘れずに、自分自身を信じる心をもって様々なことに挑戦してほしい、と伝え授業終了。

実施内容

- 期 日：平成30年5月29日（火）
- ク ラ ス：2年2組（38名）、2年1組（39名）
- オリンピアン：萩原 智子 先生（水泳・競泳）



■授業のながれ：運動の時間（1、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・萩原先生から自己紹介をした後、今日はオリンピックについて様々な角度から考えてみようという授業の目的を確認。運動の時間の約束として、「ベストを尽くす」、「全力で楽しむ」、「協力する」という3点を意識するよう伝える。
- ・簡単な準備体操の後、2人組でのボール取りゲームを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班に分かれて水泳の動きを模したエアスイムメドレーリレーを全2回実施。メドレーリレーの順番の通り、①背泳ぎ（後向き走り）、②平泳ぎ（膝を深く曲げてジャンプ）、③バタフライ（両足を揃えてジャンプ）、④クロール（前向き走り）で進む。
- ・クラス全員で手つなぎだるまさんが転んだを実施。

4. まとめ



- ・萩原先生から、授業冒頭に伝えた約束をしっかり実践できていたと話し、メドレーリレーでは、負けた悔しさもあるかもしれないが、ベストを尽くしたからこそこの気持ちであり、その悔しさは必ず次に活かすことができると伝える。
- ・座学の時間では、萩原先生の経験を伝えるので、それを通してオリンピックを身近に感じてもらいたいと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：運動の時間（2、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・この時間はオリンピックがどういふものかより詳しく考えようと授業の目的を確認。
 ・映像を見せながら、萩原先生の競技生活を振り返り、シドニー大会出場後に一度引退し、北京大会ではメディアとして参加したが、もう一度オリンピックの舞台に立ちたいと現役に復帰したことや、ロンドン大会の最終予選は5位に終わったこと等、当時のエピソードを紹介し、萩原先生が感じたオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



発問：運動の時間や日常生活の中で感じられるオリンピックバリューを考える。
 発表：ピンチの時でも諦めずに頑張る、一生懸命努力することで信頼を得る(エクセレンス)、チームで協力する、ミスをした時に励ましてくれる仲間を大切にする(フレンドシップ)、相手を認める、失敗した時に励ましたりする優しい心をもつ、勝ったチームに拍手する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピック人だけが実践しているのではなく、みんなの日常生活の中にもあるので、これから夢を実現するためにもしっかり覚えてほしい。2020年には世界各国から多くの人が集まり、千葉県では海外の選手と出会う可能性も多く、オリンピックを最も身近に感じることが出来る機会なので、今日の授業のことを思い出して携わってほしい、と伝え授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



2年4組





■ 集合写真

2年5組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 修了書贈呈

